

平成25年度

平和大使長崎派遣事業報告書



夢と希望の世界を願って

平和への第一歩



松 戸 市

目 次

平和大使長崎派遣事業にあたって	1
世界平和都市宣言	2
平和大使長崎派遣募集	3
平和大使名簿	5
平和大使長崎派遣行程	7
平和大使長崎派遣報告会	14
平和大使の報告	15
「平和を願って」	藍原 由梨奈・・・16
「長崎平和大使に参加して」	河野 圭吾・・・18
「伝え続けていきたいこと」	福田 友郁・・・20
「平和大使で学んだこと」	旗谷 幸亮・・・22
「伝えていく・・・」	宮島 健吾・・・23
「平和を目指して」	後藤 美菜・・・25
「平和大使長崎派遣報告書」	金澤 春樹・・・27
「忘れられないように」	関川 美海・・・29
「平和大使になって」	阿部 雅治・・・31
「原爆の威力」	中澤 有稀・・・33
「平和大使として学んだこと」	加藤 一紗・・・34
「命の大切さ」	島田 悠・・・35
「原爆という殺人兵器の恐ろしさ」	大久保 愛深・・・37
「一日も核兵器がなくなる世界を」	緑間 喜子・・・39
「あの一瞬、あの日の事は忘れない」	猪瀬 柊斗・・・41
「長崎に行って感じたこと」	毎熊 和正・・・43
「平和と戦争は紙一重」	奥野 智朗・・・45
「長崎平和大使派遣」	平野 茜・・・47
「長崎を最後の被爆地に」	下藤 誉司・・・48
「報告書」	新倉 拓真・・・50
「平和大使長崎派遣報告書」	郡司 萌・・・52
「平和大使長崎派遣で学んだこと」	星 さりあ・・・54

長崎平和宣言（平成25年8月9日）・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

歴代平和大使名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64



～ 平和大使長崎派遣にあたって ～

松戸市は、昭和60年3月に「世界平和都市宣言」を行い、これまでさまざまな平和事業を実施して参りました。

8月9日、6日の広島に続き被爆68年目の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開かれました。今年の式典には、昨年に引き続き、米国政府代表として駐日大使が出席し、さらに核保有国のインドが初出席しました。式典に参列した諸外国の政府関係者は、過去最多に並ぶ44カ国となり、核兵器廃絶を模索する世界的な流れが出来つつあることが感じられます。

そして、長崎市長は平和記念式典の平和宣言の中で「日本政府に被爆国としての原点に戻ることを求めます。非核三原則の法制化への取り組み、北東アジア非核兵器地帯検討の呼びかけなど、被爆国としてのリーダーシップを具体的な行動に移すことを求めます」と要請し、また、「平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠」と指摘し、若者に対して「あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。被爆者の声に耳を傾けてください」と訴えました。

近年、式典に参列できる被爆者の方も年々少なくなった状況の中、当時の様子を知る術が少なくなってきたことにより、被爆体験や戦争体験の風化が懸念されるところです。私達は、直接戦争体験を聞ける最後の世代として真実をしっかりと引き継ぎ、未来を担う若い世代に継承することが、今、課せられた使命であると認識しています。

併せて、世界平和都市宣言の理念である世界の恒久平和を念願するということから、世界各地で続く紛争に対しても目を向け、広い視野に立った施策が重要であると考えております。

平和大使長崎派遣事業を通して、松戸市の次代を担う若い世代が、被爆地へ行くことにより被爆の実相や平和の尊さを学習し、また、学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことを期待して、本事業を実施してまいります。

～ 世界平和都市宣言 ～

我が国は、世界で唯一の被爆国である。

何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。

かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

• World Peace City Declaration

[英語]

Mach 4, 1985

In the past, our country has experienced the sadness from an Atom Bomb explosion.

This makes our nation determined that history will not be repeated.

All of us yearn for peace, continue making an effort to create peace, and wish that we all can live in a peaceful environment in the future.

However, presently around the world, international affairs are becoming increasingly tense and cause our citizens great concern.

In response to the present turmoil across the world, Matsudo City now more than ever, willfully observe the peaceful spirit that is the fundamental philosophy of the Japanese Constitution.

We will endeavor to maintain nation wide peace, comply with the three anti-nuclear principles and possess the desire to abolish all nuclear weapons and the accomplishment of permanent peace throughout the world.

Therefore, we now declare our city as the "World Peace City".

City of Matsudo

• 世界平和都市宣言

[中国語]

日本是世界唯一的核弹受难国。

我们热爱和平、为和平而奋斗、切望一个和平的生活环境。

但是、当今国际关系仍然紧张、市民深感忧虑。面对动荡的世界、松戸市郑重宣告本市将遵循日本国宪法基本理念、

高扬和平精神、为保障和平而尽力、坚持非核三原则、为在地球上废除所有核武器、建立一个永久和平的世界而积极贡献力量。

～ 平和大使長崎派遣募集 ～

世界平和都市宣言事業
第6回「平和大使長崎派遣」大使募集

<募集要項>



松戸市では、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうため、長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」へ参加する中学生を募集します。

【 平和大使とは 】

「平和大使」とは、松戸市の世界平和都市宣言により、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて事前、派遣、事後研修を通じて知識を深め、そこで学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことが期待される人です。

<対象>

市内中学校に在学する生徒で、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶ意欲があり、事前、派遣、事後研修に参加できる人を対象とします。

<定員>

22名（応募者多数の場合は、抽選とします。）

引率：松戸市役所 職員3名・添乗員1名

<費用>

市の負担：長崎への往復航空運賃、宿泊代、長崎での移動バス電車運賃、

8/7の夕食、8/8、8/9の3食、8/10の朝食、昼食。

自己負担：事前、事後研修の会場（市内）までの交通費、8/7の昼食など

<申込方法>

参加申込用紙に必要事項を記入して、任意の封筒に入れ学校に提出してください。

<提出期限>

平成25年5月24日（金）

<研修日程(予定)>

1 事前研修

平和についてのオリエンテーションを行います。(自主学習)

7月 7日(日) 結団式及び第1回オリエンテーション
青少年ピースフォーラム等の内容説明。

7月21日(日) 第2回オリエンテーション
戦争、原爆、平和等について自主学習します。

8月 3日(土) 第3回オリエンテーション
自主学習とスケジュールの確認。

2 派遣研修

(1) 場所 : 長崎市

(2) 期間 : 8月7日(水)～8月10日(土) 3泊4日

(3) 内容 : 青少年ピースフォーラムへの参加等

< 青少年ピースフォーラム >

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する青少年と長崎市の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として長崎市が実施しています。主な内容として、平和祈念式典への参列、被爆体験講話、平和学習会への参加を予定しております。

(4) 「平和大使長崎派遣」日程表

8/7(水)	松戸駅 → 羽田空港 → 長崎空港 → 長崎市内ホテル (自主学習)	
8/8(木)	午前	平和案内人のガイドによる被爆建造物見学 < 場所: 平和公園、城山小学校など >
	14:00～15:00	開会行事(被爆体験講話など) < 場所: 平和会館ホール >
	15:10～17:00	参加型平和学習(屋内) < 場所: 平和会館ホール >
8/9(金)	午前	平和祈念式典への参列 < 場所: 平和公園 >
	13:30～15:30	参加型平和学習(屋内) < 場所: 平和会館ホール >
8/10(土)	ホテル → 長崎空港 → 羽田空港 → 市役所帰庁 → 市役所解散	

3 事後研修

研修の報告会を行うとともに、研修で学んだ成果を生かし、戦争や核兵器の悲惨さや平和の大切さを伝えるため、活動報告書の作成などを行います。

～ 平和大使名簿 ～

あいはら 藍原	ゆりな 由梨奈	(第一中学校	1 学年)
かわの 河野	けいご 圭吾	(第二中学校	1 学年)
ふくだ 福田	ゆい 友郁	(第三中学校	2 学年)
はたや 旗谷	こうすけ 幸亮	(第四中学校	1 学年)
みやじま 宮島	けんご 健吾	(第五中学校	3 学年)
ごとう 後藤	みな 美菜	(第六中学校	3 学年)
かなざわ 金澤	はるき 春樹	(小金中学校	1 学年)
せきかわ 関川	みか 美海	(小金中学校	2 学年)
あべ 阿部	まさはる 雅治	(常盤平中学校	3 学年)
なかざわ 中澤	ゆき 有稀	(栗ヶ沢中学校	2 学年)
かとう 加藤	かすさ 一紗	(六実中学校	1 学年)
しまだ 島田	はるか 悠	(小金南中学校	1 学年)
おおくぼ 大久保	えみ 愛深	(古ヶ崎中学校	1 学年)
みどりま 緑間	きこ 喜子	(古ヶ崎中学校	1 学年)
いのせ 猪瀬	しゅうと 柊斗	(牧野原中学校	1 学年)
まいくま 每熊	かすまさ 和正	(牧野原中学校	2 学年)
おくの 奥野	ともあき 智朗	(河原塚中学校	3 学年)
ひらの 平野	あかね 茜	(新松戸南中学校	1 学年)
しもふじ 下藤	たかし 誉司	(和名ヶ谷中学校	1 学年)

にいくら たくま
新倉 拓真 (小金北中学校 1学年)

くんじ もえ
郡司 萌 (聖徳大学附属女子中学校 2学年)

ほし さりあ
星 さりあ (専修大学松戸中学校 1学年)



～ 平和大使長崎派遣行程 ～

7月7日（日）

◆ 結団式・第1回オリエンテーション

各学校から選ばれた平和大使22名に市長から任命書が交付され、大使としての抱負を発表しました。



〈任命書交付〉



〈平和大使長崎派遣結団式〉

7月21日（日）

◆ 第2回オリエンテーション

長崎市の平和学習資料集を基に事前に学習し、感想、意見交換を行いました。

また、長崎派遣に向けて必要な事項をみんなで話し合い、コミュニケーションを図りました



〈事前学習〉

8月3日（土）

◆ 第3回オリエンテーション

長崎派遣の4日前となり、最終確認を行いました。

原爆資料館へ千羽鶴を献呈するため、折り鶴を作成しました。



〈折り鶴作成〉

8月7日（水）

◆ 10:45 長崎へ出発

10時45分松戸駅に集合して、出発式を行い、保護者や関係者に見送られ松戸駅を出発しました。14時00分発日本航空1847便で、羽田空港から長崎空港へ向かい、15時50分長崎空港へ到着しました。長崎市内の宿泊ホテルへバスで向かい、17時30分ホテルに到着。



〈松戸駅出発式〉



〈羽田空港出発ロビー〉

◆ 19:00 千羽鶴作成（ホテル会議室）

原爆資料館へ千羽鶴を献呈するため、大使が作成した折り鶴と市民の方々から頂いた折り鶴を使い千羽鶴を作成しました。また、千羽鶴に添える言葉を大使で意見を出し合い、「夢と希望の世界を願って 平和への第一歩」に決定しました。大使の思いを込めた千羽鶴の完成です。



〈千羽鶴作成〉



〈標語作成〉



〈千羽鶴完成〉

8月8日（木）

◆ 9:00 自主学习（被爆建造物見学）

朝8時にホテルを出発し路面電車に乗り、被爆建造物見学へ向いました。

見学は、平和案内人（ボランティアガイド）のガイドのもと、平和記念公園、城山小学校、原爆落下中心地公園等の被爆建造物を2時間かけて巡りました。平和案内人の方が当時の悲惨な様子を交えながらわかりやすく説明してくださいました。城山小学校内に保存されている被爆旧校舎は、今年、国の文化財に登録されました。大使たちは貴重な被爆建造物を見学し、当時の様子を体感していました。



〈松山町防空壕跡〉



〈被爆当時の地層見学〉



〈平和祈念像前〉



〈原爆落下中心地碑前で黙とう〉



〈城山小学校内にある嘉代子桜〉



〈城山小学校被爆校舎内見学〉

◆ 13:00 原爆資料館到着

午後は青少年ピースフォーラムに参加するため平和会館へ向かいました、途中、前日完成させた千羽鶴と市民から頂いた千羽鶴を原爆資料館に献呈しました。



〈千羽鶴献呈の様子〉



〈松戸市の千羽鶴〉



〈千羽鶴献呈〉

◆ 13:30 青少年ピースフォーラムに参加

青少年ピースフォーラムには、全国から33団体が参加しました。長崎市長から開会挨拶があり、^{やぎみちこ}八木 道子 さんから被爆体験講話を聞きました。



〈開会行事の様子〉



〈講話者 八木 道子 さん〉

◆ 15:10 平和学習に参加

その後、平和学習へと移り、長崎市青少年ピースボランティア（高校生・大学生など）の方が中心となってグループワークを行いました。他己紹介を行った後の原爆についての質問コーナーでは、松戸市の大使たちが積極的に質問をしていました。



〈グループワークの様子〉



〈他己紹介の様子〉

◆ 17:00 自主学習（原爆資料館）

ピースフォーラム終了後、原爆資料館を見学しました。資料館には原爆の実物大模型や原爆の被害を受けた物品などの資料があり、当時の悲惨さを目の当たりにしました。



〈原爆資料館内〉



◆ 19:00 ミーティング（ホテルにて）

ホテルに戻ったあとは、一日を振り返り、見て感じたこと、平和について学んだことを一人ひとり意見を出して班発表をしました。



8月9日（金）

◆ 9:00 平和祈念式典参列（平和公園内）

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列するため平和公園へ向かいました。大使たちは緊張した面持ちで会場へと入りました。

厳粛な空気の中、式典が行われ、11時2分、サイレンと長崎の鐘が鳴り響きました。原爆犠牲者のご冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを捧げました。

被爆68周年
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

式次第

- 10時35分 被爆者合唱
- 10時40分 開式
原爆死没者名奉安
- 42分 式辞（長崎市議会議長）
- 46分 献水
- 48分 献花
- 11時02分 黙とう
- 03分 平和宣言（長崎市長）
- 13分 平和への誓い
- 18分 児童合唱
- 23分 来賓挨拶
- 38分 合唱 千羽鶴
- 43分 閉式



〈式典会場〉



〈平和祈念像〉



〈参列の様子〉



〈黙とう〉

◆ 13:30 ピースフォーラム参加

午後は前日に続き、ピースフォーラムの平和学習へ参加しました。2日目は平和宣言文を作成してグループごとに発表を行いました。グループの代表として発表するなど大使たちが積極的に取り組む姿が見られました。



〈グループ発表〉



〈代表者へ修了証授与〉

〈グループで記念撮影〉

◆ 16:30 自由学習

ピースフォーラムを終え、最後の自由学習に向かいました。出島、大浦天主堂を見学し長崎の歴史に触れました。夕食後、グラバー園を散策しました。そこから見た長崎の夜景は美しく、大使たちの良い思い出作りになりました。



〈出島〉
と
〈大浦天主堂〉



8月10日（土）

◆ 9：00 松戸へ出発

4日間お世話になったホテルの方にあいさつし、バスに乗り長崎空港へ向かいました。長崎の地を飛行機の中から見ながら帰庁報告会に向けて準備をしました。

14時20分羽田空港着。バスで市役所へ向かいました。



◆ 16：30 松戸市役所到着

〈長崎空港出発〉

3泊4日の日程で長崎へ行って参りました。みんな元気で帰ってくることができました。

～ 平和大使長崎派遣報告会 ～

8月10日（土）本館3階会議室にて

◆ 16：30 帰庁報告会

長崎で見て、体験したことを総務部長に報告しました。大使それぞれが平和への思いを伝えてくれました。



〈帰庁報告会〉



平和大使の報告



『平和を願って』

第一中学校 1年 藍原 由梨奈

今から68年前の8月9日午前11時2分、長崎に大きな原子爆弾が落とされました。原子爆弾が落ちる1分前、1秒前まで平和だった長崎の町。その町に暮らしていた命が原爆によって奪われました。毎年長崎に原爆が落された8月9日には、平和祈念式典が開かれます。式典のときに大きなサイレンを聞くと、長崎の人の悲しみが伝わってきます。被爆者の人達は、このサイレンを聞くと、あの日を思い出してしまうそうです。現在もたくさんの被爆者のみなさんは、放射線などを原因とした色々な病気に悩まされています。

今年の夏、私は平和大使として長崎を訪れました。実際の長崎を見てみると、長崎はとてもすてきな町でした。68年前に原子爆弾が落とされ破壊しつくされたとは思えないほど美しい町でした。

しかし、被爆者の方のお話を聞いたり、原爆資料館や平和公園などを見たりすると、本当に長崎の町に原子爆弾が落ちたんだと実感しました。原爆資料館で見た11時2分を指して止まった時計、熱線によって皮膚が焼けただれている写真、長崎に落とされた原子爆弾（ファットマン）の模型は私の身長は何倍も大きくどれを見ても私の想像以上でとても悲しく、言葉がでませんでした。長崎に行く前は、平和とはどんなことなのかあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、長崎に行って青少年ピースフォーラムで平和について考えた時、ある男の子がごはんを食べられることそれだけで平和と言っていました。戦争中の人々は、食べ物は配給制と食事にも満足にできませんでしたが、それに比べ私達は、いつでも食べたいものを食べることができます。家族と一緒に過ごせること、いつも普通に生活することができます。

できるのは、今、日本に戦争が起きていないから、日本が平和だからなのだと思います。普段私達があたりまえだと思っている生活は実は幸せなことだったのです。ですが、ごはんを食べるにはお金が必要です。私達にごはんを食べられているのは、父、母が一生懸命働いてくれているからです。これから生活していくときにこの感謝の気持ちも忘れないで生活していきます。そして今の私に出来ることはもう一つあります。それは、戦争や原爆に関わる話を、後世の人に伝えていくことです。今、被爆を経験した方々は、年々減ってきています。今回平和大使として学ばせていただいたこと、被爆者の方の話、被爆建造物、例えば、長崎に行ってみないとわからないことを、被爆者の方の気持ちをたくさんの方々に伝えていきたいと思います。戦争はとても恐ろしいけれど、それを伝えていかなければずっと世界中が平和になれないと思います。そのために私が長崎で学んだことをたくさんの人に伝えていき、いつか世界の平和のために、少しでも力になれるよう、平和大使としての役割を果たしていきたいです。このような貴重な体験をさせて下さった市長さんをはじめ市役所の方々、学校も学年も違う平和大使のみなさん有難うございました。

いつの日か核兵器が無くなり、一日でも早く世界中が平和になりますように。

『長崎平和大使に参加して』

第二中学校 1年 河野 圭吾

まず、ぼくがこの事業に参加しようと思った訳は、長崎に行ったことがないので行って見たかったのもあるし、平和公園などがどんな所なんだろうと思ったのもあるし、友達をたくさん作りたかったし、原爆のことを勉強したかったからです。

長崎へ初めて行ってみて、川はきれいだったけど坂が多かったのですごく疲れました。

次に、平和公園などの場所の事についてです。平和公園という場所は、スポーツ会場やほかに色々な場所を含めて平和公園といいます。次に、その平和公園の中にある平和祈念像についてです。平和祈念像は重さ30トン、高さ9.7メートルで104個のブロックで組み立て式になっていて、腕の向きには意味があります。まずは、右手からです。右手が上のほうを向いているのは、原爆の脅威を忘れないために上を向いていて、左手が平行になっているのは、みんなが平等になるような平和な世界を願って平行になっているそうです。そして、平和祈念像がなぜ男の裸身像なのかというと、平和像には女神が多いが女神像では強い想いを表すには優しすぎるので男の裸身像を建てたそうです。次に平和の泉についてです。被爆者は「助けて、助けて」より「水、水」と言っていたので平和公園に泉を作ったそうです。次に、浦上天主堂についてです。浦上天主堂は原爆が落とされた11時2分頃まではとてもきれいな形だったのに、落とされた時の爆風によって11時3分頃に上のほうが崩壊してしまいました。

最後に原爆を落とそうとした順番です。最初は広島から小倉それから長崎の予定でした。広島に落とした後、小倉に落とそうとした時に天気が悪くなかなか落とせ

なかったので小倉から長崎と変えたそうです。

長崎へ行って見て、原爆の勉強ができて良かったです。そして、戦争はもう絶対にしてはいけないと強く思いました。争い事からは何も良い結果は生まれない。一人ひとりが優しい気持を持っていれば平和で幸せな世界になると思います。また行ける機会があったら行きたいです。

『伝え続けていきたいこと』

第三中学校 2年 福田 友郁

私は長崎に行き、原爆の資料や被爆者の講話を聞いて、原爆は人や人が大切にしていたものを一瞬で消してしまうとても惨いものだと実感しました。

そして、長崎原爆資料館で、頭部の治療を受けている老人、苦痛に耐えながら子どものために治療を受ける順番を待つ母親や、中には顔の右側が焼けただれて目や鼻などの部位がなくなってしまった当時14歳の被爆者の写真を見て、原爆は多くの命を奪っただけではなく、多くの被爆者を出して苦しませたことを知りました。それなのに、世界にはまだ1万7千発以上の核弾頭があることを知って私は、なぜ人間は核弾頭、核兵器を減らすことができないのだらうと思いました。世界にある核弾頭は約1万7千発とされていますが、私はそれよりもっと多くの核弾頭が存在しているのではないかと怖い気持ちになりました。もしも未来に核爆弾が落されてしまったら、広島や長崎の被爆とは比べものにならないくらいの被害が出てしまうのではないかと思います。人間だけではなく地球にも甚大な被害が出てしまい、核爆弾によっては地球が壊れてしまうのかもしれない。私は、そもそも核爆弾が作られなければ広島や長崎から大勢の犠牲者が出ることはなかったのではないかと思います。全国の小中学生と一緒に平和の尊さについて考えた青少年ピースフォーラムでは、少し努力をすれば平和な気持ちになれるということが学べたので、平和な気持ちになれるにはどうすれば良いのかを色々な場面で考えていこうと思います。ピースフォーラムの中でアメリカ以外でも核爆弾を作っていた国があり、日本でも核爆弾を作る計画があったことを知りました。その時私は、もしもアメリカが核爆弾を作っていなくても他の国が核爆弾を作ってどこかの国に落していたのではない

かと思いました。そして世界で唯一原爆を落とされた日本が、核爆弾や戦争の悲惨さを私たちの世代が後世の人たちに伝えていかなければいけないと感じました。

私は、長崎に行く前は授業で習ったほどでしか原爆のことを知りませんでした。でも、今回長崎に行って、今まで知らなかったことや、被爆者の話や展示物を見てたくさんの事を感じ、また、知る事ができました。長崎に行って学んだことが無駄にならないように、もう広島や長崎のように多くの人が亡くなったり被爆者を出して一生苦しむことがないように、そして後世の人たちが原爆や戦争の悲惨さ、日本は世界で唯一の被爆国であることを忘れないように、周りの人に話し伝えたり、世の中が平和に近付くための努力をすることから始めていきたいと思っています。

『平和大使で学んだ事』

第四中学校 1年 旗谷 幸亮

この平和大使で学んだ事は、原子爆弾の悲惨さです。

原子爆弾は、長崎で死亡者が約7万7千人で、負傷者が約7万5千人、合わせて約15万人もの人が、たった一度の原子爆弾投下で被害にあいました。11時2分に投下された原子爆弾のせいで、その1分後には、今までの日常風景が一瞬に変わってしまいました。そして、そこに居た人たちの生活すべてを奪っていきました。

原子爆弾は、三つの特徴があります。一つ目は爆風。二つ目は熱線。三つ目は放射線です。

長崎では、この三つの特徴の中で一番死亡者を出したのは爆風です。爆風は1キロメートル以内なら建物すべてを粉々にしました。熱線は、地面の温度が約4千度にもなるそうです。あまりの高熱に一瞬のうちに身体が炭のようになったと考えられています。放射線は、体の中の組織を徐々に壊していくので何年か経ったあとでも、様々な病気を引き起こしました。現在でも原爆症に苦しんでいる人がいます。

ぼくは、原子爆弾は怖いと思いました。だから戦争なんて、絶対やってはいけな
いと思いました。

『伝えていく・・・』

第五中学校 3年 宮島 健吾

今回、長崎派遣大使に参加し、様々なお話を聞いたり資料を見たりして、改めて原爆や戦争の悲惨さを体験しました。

原爆は、野球ボールぐらいの大きさのプルトニウムで一つの町を破壊してしまう恐ろしい兵器だということが解りました。普通に生活していたお年寄りや子供たちが一発の爆弾によって約7万人が死亡し、約7万人が負傷しました。さらにその影響は今もなお続いています。放射線の影響で何十年もたった今でも白血病や癌に悩まされ、その恐怖と闘っている人もいます。

そんな中、自分が被爆したにもかかわらず、苦しい思い出を必死に思い出して、後世に語り継ごうとしている方々があります。そのような人たちを「語り部」と呼んでいます。今回の長崎派遣で語り部の方に直接お話を伺い、その内容に衝撃と恐ろしきで胸が詰まる思いがしました。

僕らはこの原爆の恐ろしきや戦争の悲惨さを後世に伝えていく責任があります。そのために必要なことは3つあると僕は思います。

1つ目は「身近な人に伝えていく」です。身近な人に伝えていき、それをまた違う人たちに伝えていく・・・そういう小さなことが必要です。そうしていけば世界中の人々に平和の気持ちが届いていくと思います。

2つ目は「実行していく」です。実行とは例えば原爆反対の署名運動があったらそれに参加したりすることです。そのような小さなことでもコツコツ積み重ねていけばいずれ世界を動かすようなことになるかもしれません。

3つ目は「記録していく」です。今ある資料や建造物はどんなに頑張っても保存し

てもいつかは崩れていくものです。資料や建造物を残していくことが、これからの僕らの使命でもあり、それが後世に伝えていくことにもなります。

今、世界には約17,300発もの核弾頭が存在しています。そのうちほとんどがすぐに発射できる状況にあります。つまり、うっかり発射してしまう可能性も十分にあり得ます。もし発射してしまったら人類は滅亡するとまで言われています。そうならないためにも原爆を無くし、各国の緊張をなくすことが平和へと繋がっていき、更には原爆で亡くなった方々の供養にもなると僕は思いました。

最後に僕にこのような経験をさせてくださった、長崎でお世話になった方々、松戸市役所の方々、そして平和大使の仲間たち、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。今回の経験を一生忘れることはないと思います。

『平和を目指して』

第六中学校 3年 後藤 美菜

「戦争は二度としてはいけない。」

私は今年の夏に松戸市の平和大使として被爆地の長崎へ行きました。被爆者の方から直接話しを伺ったり、平和祈念式典に参列したりととても貴重な経験をする事ができました。

今まで、戦争や原爆については学校の教科書での写真や本などでしか知る機会がありませんでした。想像していた以上の被害を直接見聞きし、その大きさに声が出ないほどでした。たった一分で賑わっていた街の人々の命と生活を奪い、街を破壊した事実を信じたくありませんでした。当時のレンガの沸騰した跡や、崩壊した建物、やけどを負った人々の写真を実際目にして、それが現実であることを強く感じ、辛いけれど目を背けてはいけないと感じました。

また、被爆者の方が一発の原子爆弾によって全てを失った事実を、これからも語り継いでいって欲しいという強い思いを感じ、平和のバトンを受け、繋げていくことが私達の世代の役割だと感じました。

平和について同世代の子と話し合いをしました。改めて考えてみると平和は自分達の近くにもあることがわかりました。相手を思いやることや平等に接すること、お互いの意見を理解し尊重しあうことも平和に繋がることだと気付きました。私は今まで平和は国と国との争いをなくしたり、核兵器をなくすことで実現できるものだと思っていました。もちろん、それらのことも大切だと思いますが、身近にも平和に繋がることのあるのだと気付くことができたので、それを心がけ多くの人も気付き、広めていかななくてはならないなと感じました。

平和について身近に体験したことで、あたりまえの生活がとてもありがたいことだと思いました。また、唯一の被爆国である日本は原子爆弾の恐ろしさについて語り継いでいくことで戦争を二度と起こさせないようにしていく大切な役割があると思います。

私に何ができるのか、何をすべきかを考えていきたいと思っています。小さなことでも続けていき、永遠の平和を目指し世界中の人々が幸せになれるようお願い、行動していきたいです。

『平和大使長崎派遣報告書』

小金中学校 1年 金澤 春樹

「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ」とさけぶ被爆者の方の声を直接聞く事が出来る最後の世代がぼく達なんだと平和祈念式典で長崎市長が平和宣言の中でお話ししていました。後から調べてみると、これは国連軍縮特別総会で核兵器廃絶を訴えた被爆者の方の声です。ぼく達平和大使が長崎で学んだ事や感じた事をしっかり伝えていかなければいけないんだと強く思いました。一緒に参加した平和大使の皆も同じ気持ちだと思います。松戸市は平和都市宣言をしています。核兵器を「持たない」「つぐらなない」「持ち込ませない」という非核三原則が日本にあります。平和宣言で長崎市長は核が拡散する事を防ぐ目的で作られた条約（NPT）について取り上げていました。再検討会議準備委員会で提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に日本政府は署名していないので、「世界でただ一つの被爆国が賛同しないでどうやって核兵器の恐ろしさを世界に伝えていくのか。」と疑問を長崎市長は訴えていました。被爆された広島や長崎の人達の身になったら賛同しないなんて考えられません。長崎は68年前の8月9日に一発の原子爆弾によって一瞬にして7万人もの人々の命がうばわれました。こんなに惨い核兵器は必要ありません。二度と悲惨な戦争を繰り返してはいけません。ぼく達はピースフォーラム（平和学習）に参加して被爆者の方の体験を直接聞きました。そのリアルな話は想像をはるかに超えていて聞いていてとても辛かったです。普通に生活を送れることがいかに幸せで有り難い事なのか思い知らされました。平和大使で長崎に行かなければ平和についてこんなに深く考えたり感じたりする事は出来なかったと思います。現在も世界に一万七千発もの核兵器があると

いわれています。ぼくは未来がどうになってしまうのかとても心配になりました。核兵器の実験でこのまま地球が汚染され続けたら取り返しのつかない事になってしまいます。ぼく達が目をそらしてはいけないと思いました。平和な世界を作る為に被爆者の方の声と平和の大切さを沢山の人の人に伝えていきます。

『忘れられないように』

小金中学校 2年 関川 美海

「あなたたちはいつか、最後の被爆者が死にました、というニュースを聞くでしょう。」

この言葉は青少年ピースフォーラムの被爆体験講話で八木道子さんが言った言葉です。

言っていることは正しいと思います。もし被爆者の方々が皆、亡くなってしまったら、被爆者の話を聞いた人や写真を見た人が伝えていかなければいけないと思います。

私は長崎で様々なものを見てきました。原子雲の写真や傷付いた人の写真、外国人被爆者の証言や泡が立ってしまった瓦など、実に様々な物があり全てが異様なものとして私の目に映っていました。平和大使としては恥ずかしいですが、思わず涙を浮かべてしまったこともありました。

それでも目を背けなかったのは、この後に見たことを誰かに伝えていき、この先の将来に核兵器の恐ろしさを知る人がいないという事にならないようにしなくては、という思いがあったからです。

私が今回の長崎派遣で強く思ったことは、核兵器はこの世に存在してはいけないということとともに、戦争も存在してはいけないということです。

人は古来から、戦いをする事で何かを得てきました。土地を守る事、土地を得る事、称号を得る事、たくさんの目的や思惑が混交したものである、と私は思っています。

ですが、戦いの後を見ると、荒廃した土地、たくさんの亡骸、それに群がる虫、

どれを取ったとしても立ち直らせるのには時間がかかり、表面的には利益があるように見えても、実際は利益よりも損害の方が大きいと思います。

核兵器についても同じですが、それよりも利益は圧倒的に少ないと言えます。まず、熱線や爆風によって大勢の人が亡くなり、死をまぬがれた人でも心や体に大きな傷を負いました。また、放射能でガンに侵されたり子供が小頭症で生まれてきたりしました。今でも放射能や差別によって苦しんでいる人は大勢いると聞きました。

そのような人はたくさんいるので、私はより多くの方が長崎や広島に自分の足で行って見聞きしてほしいと思います。人が伝えたもので全てを知るということはとても難しいですが、自分で見聞きしたものであればすぐに理解できると思うからです。そして知ったならば、その人も伝承者の一員です。一人でできることはたかが知れているとしても、十人、二十人と多くの方が伝えていけば、たくさんの人に伝わるでしょう。

私は出来る限り多くの人に伝えていけたらと思います。

最後に、今回の派遣を企画・運営してくださった松戸市役所の方々並びに、多くのことを教えてくださった長崎市の皆様、本当にありがとうございました。

『平和大使になって』

常盤平中学校 3年 阿部 雅治

今回、平和大使の仕事をさせていただきました。最初は、あまりやる気が出ませんでした。しかし、大使の仕事をしていく中でこの仕事の重大さを知りました。知らない学校の人と4日間過ごすのは不安もありわくわく感も多少ありました。けれど、長崎で過ごしていく中でだんだん仲良くなれました。何よりこんな短い間で仲間になれたことに感動しました。感動した事は、これだけではありません。長崎に行き長崎の人達の想いに僕は感動しました。長崎で平和案内人の方が長崎を案内して下さいました。その方は被爆者の方でした。その方はとても元気そうでした。話を聞いていてもものすごく恐くなりました。本当におそろしい事だと改めて感じました。その時から僕の本当の考えみたいなものが変わりました。実際に被爆した場所に行った時はすごく生々しかったのを覚えています。

僕は、たくさんの方々が亡くなられた中でも子供達の死が頭から離れません。子供達はまだまだこれからの人生、未来、夢があったのに被爆して亡くなられたのは、あってはならない事だと思いました。ピースフォーラムでは全国から小中高生が来て平和について話し合いました。知らない人ばかりで少し気持ちが弱くなりましたが、最後は班の皆がきちんと自分の意見が言えたので良かったです。質問コーナーでは、松戸市の平和大使がたくさん質問をしていて感動しました。本当にびっくりしました。

僕は平和大使になりました。思った事は平和という言葉簡単に言葉にしてはならないということです。平和の重みが今回わかりました。この体験はいろんな人々に伝えていきたいです。まずは家族や遺族に伝えていきたいです。それがはじめの

はじめの一步だと思ひます。こんな良い経験をして下さって感謝しています。
ありがとうございました。

『原爆の威力』

栗ヶ沢中学校 2年 中澤 有稀

多くの人の命を奪い、町一つ消してしまうほどの力を持つ原爆。長崎の人たちからは「ピカドン」と呼ばれていました。

さて、その原爆でもっとも恐ろしいのは、放射線を大量に放つプルトニウムです。原爆はただ爆発するのではありません。最初に爆風が襲い、次に熱線で焼かれてしまいます。そして大量の放射線を浴びてしまうのです。しかもこのプルトニウムの驚くべき所は、なんと野球ボールほどの大きさということです。重さは約6キログラムほどの大きさで町が消し飛んでしまう。さらには、戦争が終わった今でも苦しんでいる人々がたくさんいるのです。

このように原爆は何のメリットもない殺人兵器です。ただ傷つけるだけ。こんな兵器が人間が住む場所にあって良いのでしょうか。何も良いことは生まないのに。

私は、こんなものを作り出してしまった人が許せません。これは人間が作ったのです。だからこそ、人の手みんなの手で核を無くしていかなければならないのです。さまざまな被害を出す核。長崎で学んだことを生かして将来原爆を無くすことに協力し、この世界から核を無くしたいと思います。

家族、友達、そして、自分のためにも。

『平和大使として学んだこと』

六実中学校 1年 加藤 一紗

私は平和大使として長崎に行き色々なことを学びました。二日目の平和案内人の方のお話、青少年ピースフォーラムでのお話などを聞き、長崎に落ちたたった一発の原爆がこんな恐ろしい出来事をまねいた事に驚きました。長崎に行く前は、原爆の本当の悲惨さや平和の大切さなどがわかっていなかった部分がありました。でも現地に行き、被爆者の方から話を聞いて、原爆の悲惨さ、平和の大切さがわかりました。長崎に落ちたたった一つの原爆が心に一生消えないような痛みを残していきました。そんな恐ろしい兵器がまだ世界にはたくさんあるという事が信じられません。私は、こんな恐ろしい兵器があってはいけないと思いました。私はもう二度と長崎のような悲惨で苦しい思いをした国、人を見たくないし、その話も聞きたくないです。だから私たちがここで学んだ事、感じた事などをみんなに伝えて、協力して、いつか原爆をなくしたいです。それが私なりの世界の平和かなと思います。

最後に、私はいつも軽々しく「死ね」とか「うざい」などの言葉を言っていたし、聞いたこともあります。でも長崎に行って、言っではいけない言葉なんだ、ということに改めて感じました。「死ね」などの言葉を平気で使うからケンカがおこるんだと思います。まずはみんなで協力してその言葉を言わないようにすれば良いと思います。そうすれば私たちの周りには小さいけど平和の輪が広がると思います。まずは小さな事からコツコツとやっていきたいです。こういう考え方をするようになったのも、長崎に行ってからです。長崎に行って色々な事を学び、たくさんの人に出会えました。長崎に行けて、本当に良かったです。なぜか、それは、長崎の町や人が私の考え方や想いを良い方に変えてくれたからです。

『命の大切さ』

小金南中学校 1年 島田 悠

私は、小学校のころ、戦争で使われた「原子爆弾」について学んだ。けれど、長崎で学んだ「原子爆弾」の被害や影響力は、想像以上のものだった。

長崎に着いての第一印象は、優しい人が多くて、とても良い町だと感じた。だからこそ、こんなに温かい町に原子爆弾が投下されたことは、想像すらできなかった。

原子爆弾の恐ろしさが分かったのは、二日目の青少年ピースフォーラムのときだった。あの日の話は、一生忘れられないほど、つらかった。

被爆者の方からは、とても丁寧にお話をしていただいた。私の中でも驚いたことが三つある。

一つ目は、原子爆弾による被害。熱線・爆風・放射線のことだ。熱線で、焼けただれてしまった人のこと。爆風では何もかも壊されてしまったこと。そして多くの方が放射線で苦しんだこと。悲惨な写真を何枚も見て原子爆弾の恐ろしさが伝わった。

二つ目は、原子爆弾の威力。一つの原子爆弾で、73,884人ものが死んだということに驚いた。なぜ人は人を傷つけ、自分のために戦うのだろう、と思った。多くの人々の心も体も傷つけた人を、私は許せない。

三つ目は、原子爆弾が投下されたとき、人々は、逃げ遅れてしまったと聞いた。だから、生き残った人はとても悲しく、つらかったと思う。

長崎へ行く前はただ、原子爆弾は人の命を奪う物としか考えていなかった。今では、何年経っても決して消えることのない残された人々の苦しみがわかった。もう二度と、くり返してはいけないという強い気持ちが生まれた。

最後に、もし明日、または今、この町に原子爆弾が投下されたら。大切な家族も、友人も失ってしまうだろう。だから私は、普段の生活を大切に生きていこうと思う。そうすれば、今よりも「命の大切さ」が分かるだろう。一人一人が平和を大切にしていけば、いつかは必ず、世界にも平和がおとずれるだろう。何年かけてもいいから、私はそのことをずっと願いたい。

『原爆という殺人兵器の恐ろしさ』

古ヶ崎中学校 1年 大久保 愛深

私が、この活動を通じて学んだことが二つあります。

一つ目は、原爆の怖さ、恐ろしさです。原爆という恐ろしい核兵器は、関係のない子ども、お年寄りなど、一瞬にして多くの命を奪ってしまいました。原爆、それは世界で一番怖い無差別殺人兵器だと思います。そんな怖い核を使った原子力発電所を、なぜ日本は造ったのでしょうか。また、その技術をなぜ世界に売り出そうとしているのでしょうか。日本が唯一の被爆国だというのに。少し話が変わりますが、今世界にあると言われている核兵器の数は、約1万7千発と言われています。核兵器は世界を滅ぼすかもしれない危険な物です。こんな危険な殺人兵器は、1秒でも早く無くなった方がいい、無くなるべきだと思います。また、それを利用した原発も早く無くなるべきだと思います。

二つ目は、原爆の被害者が、今も苦しんでいるということです。原爆の被害の中で一番怖いのは、その後もずっと苦しまなければならない放射線です。普通の爆弾でも被害が大きいのに、それにプラスしてその後の放射線の被害も出てしまいます。せっかく生き残った人達でも、白血病などの病気で亡くなってしまいます。なので、やはり放射線が一番怖いと、私は思います。そんな放射線をたくさん放出してしまう原爆は、前で述べたように早く無くなるべきです。

私たちの世代は、被爆者の話を聞くことのできる「最後の世代」です。なので、私は被爆者の話をしっかり聞いて、たくさんの人々に伝えていきたいのです。

また、「今日、最後の被爆者が亡くなりました。」そんな話を聞く時が必ずやってくるでしょう。でも、それで忘れてたりせず、今回学んだことを一人でも多くの人々

に伝えていき、この悲劇を忘れないようにしたいです。

最後になりますが、私はこの長崎派遣で、多くのことを知り、学ぶことができました。この活動に協力して下さった皆さま、そして引率して下さった方々、本当に有難うございました。これからは、今回学んだことを一人でも多くの人に伝えていき、原爆というものの恐ろしさを一人でも多くの人に知ってもらえるよう努力しようと思います。

『一日も早く核兵器がなくなる世界を』

古ヶ崎中学校 1年 緑間 喜子

私は、「長崎平和大使」として四日間長崎に行って原爆の恐ろしさ、平和の尊さを学びました。

私は、長崎へ行く前、もらった資料で事前学習をしてすべて知った上で長崎へ行ったつもりでした。しかし、原爆資料館を見学していると資料だけでは分からないことがたくさんあって資料で調べることも大切だけど、実際現地に行って自分の目で見て学ぶことも大切なんだと改めて感じました。展示されている写真を見ていると、黒こげになって死んでいる人の写真、背中の皮がはがれて赤くなっている子どもの写真…。この人たちは11時2分まではみんな元気に遊んでいたり、生活していたのにたった一分の間でこんなに無残な姿になってしまったのか…。もし私たちの町に核兵器が落とされたとしたら…。と思うとぞっとしました。

もう一つ、被爆者の方の話を聞きました。「一瞬で何もかもなくなった。人々は『水、水…。』と言いながら死んでいった。空を見ると燃えているように真っ赤だった。」と話していました。私はその直後に城山小学校の被爆校舎にある絵を見ました。それは被爆者の方が言っていた通り、燃えているように真っ赤でまるで地獄でした。これが68年前に本当にあったのかと驚きました。被爆者の方の話の中で、戦時中は国のためぜいたくはできないと食べるものは配給され、少ない食料で生活していたそうです。それがほとんどカボチャばかりで食べたいものは食べられなかったそうです。それを聞いて私は自分が食べたいものを食べられて幸せだなと思いました。そしてもっと感謝して食べるようにしたいと思いました。

私は長崎に行って原爆の恐ろしさ、平和の尊さを学びました。被爆者の方の話を

聞くということはなかなかできないことだと思い、長崎平和大使に応募して良かったと思いました。ですがここからが大使の役割を果たすスタートだと思います。世界にはまだ約1万7千発もの核兵器があります。核兵器を一日でも早く無くすにはどうしたら良いか、それはみんなが核兵器の恐ろしさを知り訴えていくことだと思います。そのためにまず私たち平和大使が前に出て核兵器が無くなる世界に少しでも貢献していきたいです。

『あの一瞬、あの日の事は忘れない』

牧野原中学校 1年 猪瀬 柊斗

1945年8月9日木曜日午前11時2分。一瞬にして、長崎の町が崩壊してしまったあの日。その時の長崎市民の人々は、身体と共に心もバラバラに引き裂かれたことでしょう。僕は長崎に行き多くのことを学びました。たった一つの原子爆弾で16万人も傷を負った方、亡くなった方がいます。その話を直接、被爆者の方から聞いたときは「なぜ戦争を始めたのだろうか？なぜ核兵器を造り、投下したのだろうか？」と思いました。この派遣で一番心に残っているのは、被爆者の方の声でした。「ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ウォー ノーモア・ヒバクシャ」。この言葉を聞いた時は、やはり日本人は、核を無くしたいと思っていて、核が消滅し、本当に安全と言える日を待ち望んでいるんだと、僕は新たに、実感することができました。そして、自分なりに考えたことがあります。

一つ目は、この世界では、まだ戦争があることです。この地球上では、南アフリカを中心として、戦争が勃発しています。皆さんには分かりますか？戦争に参加なくていい子ども達なのに、無差別に殺された人々の無念の思いが。「戦争は大人が起こした戦い。戦争は大人達が戦うもの。だから僕達子どもを、殺さないで。そして僕達を巻き込まないで。」と子どもは思っているけど、戦争には通用しないと、被爆者の方がおっしゃっていました。戦争は無差別に人を殺す恐ろしいものだと、戦争を無くさなくてはいけないと思いました。

二つ目は、私達は、被爆者の方の声を直接聞ける最後の世代になりつつあるということです。その為、長崎派遣で被爆者の方からもらったバトンを僕達は、友達や家族そして世界の人達にもつなげ、平和の輪を世界で創りたいと思いました。

今では、戦争中には考えられないほど、街が美しく、食材や自然も豊かです。原爆を投下され、ぐちゃぐちゃになったのにここまで回復した長崎の姿に感動しました。

最後に、僕達はいずれ「最後の被爆者が亡くなりました。」というニュースを聞くことでしょう。しかし、被爆者の方が亡くなっても、被爆していない僕達が核をなくそうとする想いは変わりません。ですが、僕は、被爆者の方々が生きている間に、世界の17,300発の核爆弾をなくし、被爆者の方に「世界の核爆弾がなくなりました。」というニュースを聞かせてあげられたら良いなと思いました。

『長崎に行って感じたこと』

牧野原中学校 2年 毎熊 和正

僕は平成25年8月7日から10日の4日間、平和大使として長崎県に行ってきました。

僕が長崎に行って学んだことは原子爆弾の恐ろしさです。

8月9日、11時2分のサイレンが鳴った時、僕は「もう二度とこのような事があってはいけない・・・」と強く思いました。

この日のちょうど68年前、長崎市内に一つの原子爆弾が投下されました。

僕はその時の写真を見てびっくりしました。今は緑豊かで、大きな建物がたくさんある長崎の町ですが何もかもなくなっていたのです。町全体が焼け野原でした。

平和案内人の方が言っていました。「原爆が落とされた瞬間ここは爆風で全て吹き飛ばされてしまった」と。僕はその瞬間「人間は何でこんなおかしな物を作ってしまったのか」と思いました。

原子爆弾が落とされた時、秒速400メートルの爆風が吹き温度3,000度から4,000度という熱線が人々を襲いました。やけどした皮膚は垂れ下がり、そこには無数のうじ虫と異臭が湧いてきたそうです。

そして放射線も人々に被害を与えたそうです。外部から放射線を浴びると、抜け毛、嘔吐の症状が表れ、内部で放射線を浴びると、白内障、白血病、ガンなどを引き起こすそうです。

僕はそれを知った時、「もし、自分の身にそのようなことが起こったらどうしよう」と思いました。

世界にはまだまだたくさんの核弾頭が存在します。人類は、一日でも早く核弾頭

をゼロにすべきです。僕は将来、核軍縮に貢献できればいいなと思っています。

帰宅してから、家族がいること、温かい食事があること、いつも当たり前に思っていたことが本当に幸せなことなんだと思えるようになりました。

最後にこのような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

『平和と戦争は紙一重』

河原塚中学校 3年 奥野 智朗

「平和って、何？」これが、ぼくが平和に対して初めて意識をした時の言葉でした。ぼくは、平和大使として長崎に行く前はこう思っていました。「平和というものは、戦争と戦争の間にある短くて大切な時間を大事にしよう。」しかし、長崎に行ってからやっと分かりました。先程述べた答えは微妙に違って、はるかに違っていると。

長崎原爆資料館、ここには日常生活の中で今までに一度も見ただけの世界がありました。熱線で口の部分が溶け、その周辺にあった同じようなものと一緒になってくっついた6つで1つのガラスびん。人間の手の骨と爆風で飛んで来たガラスが溶けてくっついてしまったもの。放射線の影響で、健康な人ならば110グラムなのに、それが約40倍の4000グラムにもなってしまった脾臓。爆風のため、骨格だけがかろうじて留まっていたが、その後の風雨によって上から押しつぶされたかのように崩れてしまった鉄筋コンクリート3階建ての学校の校舎。鳥居の半分以上が飛ばされてしまった神社の鳥居。そういったものを見てきて、ぼくは何も言えませんでした。言おうとしても、頭が真っ白になっていたため言葉が出てきませんでした。それほどのひどい有り様だったのです。これが核兵器のおこす無意味な結果なのかと心が痛みました。このようなことを教訓に、核兵器を使用する機会を作らせず、永遠の平和をこの自分達の手で作っていきたいです。

そして、平和祈念式典。被爆された方々や被爆によって亡くなられてしまった方のご遺族の方々。政治家の方や全国から集まった平和を守り通していきたいという意思をお持ちのみなさん。誰もがこの式典を待ち望んでいたであろうと思います。

なぜなら、日本中に、いや世界中に核兵器の恐ろしきや平和の大切さを伝えることができるからです。このようにして伝えることができる機会は、あまり多くありません。だからこそ、このような式典で一人でも多く平和について考えてもらいたいと思いました。

ぼくは、平和大使の活動を通して今ぼく達がどんなに幸せで恵まれているか改めて考えさせられました。しかし、この平和な世の中が当たり前なのではありません。戦争による多くの人々の苦しみがあったからこそ、今の平和があるのだということが分かりました。そして、平和というものは戦争と戦争の間ではありません。自由である時間です。そして、戦争をおこさせなければ良いのです。そのようにして、永遠の自由を作っていけばいいのです。ぼくは、そこにたどり着くまでが、わからず屋による戦争なのだ分かりました。このことを、友達をはじめとして世界中の人々に伝えていきたいなと思いました。

世界中が平和になることを祈って。

『長崎平和大使派遣』

新松戸南中学校 1年 平野 茜

8月7日から8月10日の3泊4日平和大使として長崎に行ってきました。

二日目は、青少年ピースフォーラムに参加して被爆体験講話を聞き、平和とは何かをグループに分かれて話し合いました。そして原爆資料館にも行きました。そこには当時本当に着ていた服や、写真などが展示されていました。衣類は血がついていました。写真は、人間の皮膚がはがれていたり、顔がやけどをしてとけていたり人がたくさん倒れて死んでいたりする痛々しい写真ばかりでした。

三日目は平和式典に参加して貴重な体験になりました。そして二日目に引き続き、青少年ピースフォーラムに参加し、もう一度平和とは何かを話し合いみんなの前で発表をしました。

私の誕生日は8月9日で、まさに私の生まれる68年前この場所で悲惨なことが起きました。きっとこのなかにやりたいことや夢を持ちながら死ななければならなかった13歳の女の子がいたんだろう、そしてその子たちの代わりに今の自分のできることは何だろうと深く考えました。

語り部のおばあちゃんからも当時の話を聞きました。いろんな話がある中で感じたことは、この戦争を忘れてはいけない、戦争から平和は生まれない。そして私たちが語り部から聞いてきた話を辛い話ばかりだけど伝えなくてはならない。そして命を大切に、時間を大切にしなければならない。これが自分にできることではないかと思いました。

『長崎を最後の被爆地に』

和名ヶ谷中学校 1年 下藤 誉司

ぼくが、今回平和大使として長崎に行って一番印象に残ったのは、被爆体験講話です。

講話の八木道子先生は、被爆地から3.3キロメートルの自宅の二階で被ばくし、原爆の爆発する瞬間を見ていたそうです。原爆は、爆発すると、爆風で周囲の人、物を吹き飛ばします。爆風の風速は秒速440メートルで、台風の風速は、80メートル程度なので、とても強いということが分かります。さらに熱線でひどい火傷を負わせました。この時の地表の温度は約4,000度にもなったそうです。ある人は、この熱線によって背中の一帯や腕を大火傷し、幸い、一命は取りとめました。が、半年経っても皮膚は再生せず焼けただれたままだったそうです。また、原爆落下中心地の近くには、小学校が多くありました。そのため、大人が始めた戦争なのに、関係のないたくさんの子供が亡くなりました。爆心地から500メートルの城山小学校では約1,500人いた児童も、生き残ったのはたった49人だけだったそうです。

このように、核兵器はだれ構わず攻撃する兵器です。核兵器は二度と使ってはいけないものだと思います。しかし、世界にはまだ17,000発以上の核兵器があります。この核兵器を減らすために、しっかりと周りの人に、平和の大切さ、原爆の悲惨さを伝えていきたいと思います。また、青少年ピースフォーラムでは、身近な平和について考えました。この学習で、身近なところから平和をつくることができるということが分かりました。なので、身近な人とのコミュニケーションを大切に、周りの人を尊重する、相手を考えて行動するなど、身近な所から、平和

にする努力をして行きたいと思います。しかし、北朝鮮が核実験をしている、ということ、ニュースをよく聞きます。長崎を最後の被爆地にするためには、核兵器のことは日本だけではなく、全世界で考えなくてはならない問題だと思います。また、原爆資料館や城山小学校、平和公園や原爆落下中心地の碑などの所には、全国各地から送られた、千羽鶴がありました。この鶴の量から、平和を願う人がたくさんいるのだな、と思いました。平和を願う人がたくさんいるということは、平和な世界も、そう遠くはないのではないかと思いました。

『報告書』

小金北中学校 1年 新倉 拓真

ぼくは長崎平和大使として、長崎県に行き、平和と核兵器の悲惨さについて学んできました。

「幸せとは何か、平和とは、何か。」

同じような質問が青少年ピースフォーラムで出されました。そのときぼくは、「幸せって何だろう、平和って何だろう。」と思いました。よく考えたら、一つの考えが出ました。それは、戦争が無い世界が平和なのではないかと思いました。

しかし、戦争がなくても、核兵器があるだけで平和ではないとぼくは思います。

ぼくは青少年ピースフォーラムが終っても、平和とは、何か?と考えていました。そして、出た答えは、一人ひとりが平和だと思えばいいのでは、とぼくは考えました。

平和だと思っている人がたくさんいれば世界が平和になると思います。

次に、核兵器の悲惨さについてです。核兵器は、戦争に関係のない小さな子供まで巻き込んでしまう恐ろしい物です。

原子爆弾は、今から68年前に長崎と広島に投下されました。

長崎では、地上から500メートル上空で爆発しました。爆発した原子爆弾からは、爆風、熱線、放射線が、起こりました。

爆風は、1秒間に400メートル、熱線は、約3,000度～約4,000度もあったそうです。

放射線は、見えない、さわれないという特徴をもっていて、放射線をあびると色々な病気になってしまいます。

その病気とは大きく二つに分けられています。一つが急性期障害で、放射線をあびてからすぐになる病気で、脱毛や、発熱、下痢、出血などが見られます。

二つ目は、後にかかる病気で、白血病、ガン、白内障、小頭症になってしまいます。

ぼくは、こんなひどい事は、体験したくありません。なので、核兵器をなくす取り組みには、できるだけ参加したいと思っています。

『平和大使長崎派遣報告書』

聖徳大学附属女子中学校 2年 郡司 萌

私がこの「平和大使長崎派遣」に応募した理由は、原爆というものについての事実を、日本人としてきちんと知っておきたかったからです。なので、この事業に参加できることになり、とても嬉しかったです。

松戸市役所での結団式やスケジュール等の確認などのオリエンテーションを経て、長崎へ行きました。

一日目は長崎へ着いたのが15時頃で、それからホテルへ向かい、すぐに夕食となり、夕食後のミーティングをしました。ミーティングでは、次の日に原爆資料館へ千羽鶴を献納する為にそれを皆で完成させました。

長崎の暑さは関東のものより非常にきつかったです。この暑さの最中、落とされた原子爆弾の酷さに足がすくみました。

二日目は、色々なところに行き学習しました。まず、路面電車で原爆落下中心地へ行きました。平和案内人の方から様々な事を聞き、平和公園やその周辺、被爆建造物、防空壕などを観て回りました。案内人の方のお話の中で、特に胸を打たれたのは、一度空襲警報で防空壕に避難していた児童たちが警報解除のサイレンによって校庭に出て遊んでいるときに原爆を落とされた、というお話でした。あのまま、防空壕の中に居たら沢山の児童たちが死なずにすんだかもしれません。なぜ、警報は解除されてしまったのでしょうか。今となっては事実を確かめることもできませんが、悔やまれてなりません。このような話は、原爆に限った事ではないと思います。一つの小さな間違いでも、戦争という中にあるのは、人の生死を左右してしまうことに改めてショックを受けました。

三日目は、いよいよメインイベントの「長崎平和祈念式典」への出席です。当日は快晴で、式典ではテントの中で座ることが出来ましたが、うだるような暑さでした。式典は肅々と執り行われました。大勢の列席者の中には、外国の方々もたくさんいました。今更ながら原爆が投下されたのは、地球上探しても、日本という国の中の広島と、今、自分たちがいるここ、長崎だけなんだと痛感しました。その夜、グラバー園に行きました。私は初めてだったので、昼間のグラバー園を観たことはありませんが、電気のついた夜のグラバー園は、日本ではないみたいな不思議な雰囲気漂う場所でした。今回の目的は、原爆について学ぶ事ですが、学習すればするほど、その悲惨さを知って、とてもつらかったです。そんな中でのグラバー園見学は、一時のほっとできる時間でした。

この派遣を通して、一番心に残っていることは二日目のピースフォーラムの中で聞いた、被爆者の方のお話でした。「原爆が投下される前まではここに存在していた。なのに11時2分の後には一瞬にして何もかもなくなり、失われ、尊い沢山の命までも消えてしまった。」

原爆は殺人兵器です。こんな恐ろしいものを今何発も作って持っている国があります。私は信じられません。今でも核兵器を造っている人たちは広島や長崎に来たことがあるのでしょうか？人間が作った核が同じ人間（人類）を滅ぼしてしまう事に気づいていないのでしょうか？

原爆投下からもう、68年。近い将来、被爆者の方が全員いなくなってしまう時代が来るでしょう。そうなった時も今回の派遣で貴重なお話を聞けて、原爆の実態を細かに知ることが出来た私は、世界中の沢山の人々にいつか核がなくなる世の中が来る事を祈って、伝えていかなければいけないと強く心に誓いました。素晴らしい体験が出来たこの、2013年の夏休みを、私は一生忘れないでしょう。

『平和大使長崎派遣で学んだ事』

専修大学松戸中学校 1年 星 さりあ

私は、長崎に行く前までは、「平和」という言葉を簡単に使い、簡単に考えていました。実際に長崎へ行って、「平和」という言葉の重み、そして、言い表す事ができないくらい大切だという事を強く感じました。被爆者の方から聞いたお話の中で、「11時2分までは、セミの声や人の話し声も聞こえていたのに、11時3分になったら、何の音もしなくなってしまう。」とっていました。原子爆弾が一つ落された事により11時3分を迎える事ができず、永久の11時2分になってしまった方が、何万人もいます。一瞬で、何万人の大切な命をうばい、沢山の方を傷つけ、景色まで全て変えてしまいました。このような現実から私は、目をそらしたくなりました。本当に恐く、悲しかったです。しかし、その現実が68年前にあり、私達が目をそらしてしまえば、原子爆弾で亡くなられた方々の事を考える人がいなくなってしまう。そう考え、私は、その現実を受け止め、改めて平和の大切さを考えました。私達は、被爆者の方の話を直接聞くことのできる最後の世代です。私達が68年前の現実を受け止め、理解し、平和の大切さを伝えていかなければなりません。私達人間が、原子爆弾を落としたのだから、私達人間の手で、核兵器をなくしていかなければなりません。私は、世の中から核兵器がなくなる事を遠い夢のように思っていました。今は、絶対になくさなければならないと思います。私達が、世界を平和にするために出来ることは何だろうと、他の県の方々と話し合いました。私たちは思いやりの心を持ち、平等に生きていく事だと思います。そして、あの日の事を忘れず、次の世代へ戦争、原子爆弾の恐ろしさ、悲惨さを伝えていかなければなりません。亡くなった方の大切な命を無駄にしてはいけないと思います。核兵

器をなくし世界が平和になるには、一人の力では何もできません。世界中のみんなが、考え、理解し、力を合わせれば、世界が平和になると思います。難しい問題ですが、私は、一つ一つやってみようと思う事があります。小さな事から、物を大切にしたり、生き物や私の周りの人を心から思いやり、沢山の命を大切にしようと思います。今、何でもできる便利な世の中に甘え過ぎず、時々、長崎で学んだ事を振り返ってみようと思います。そして、今後も平和を願い自分が出来る事を見つけて、一つ一つ実行していこうと思います。

最後に、今後も歴史について調べたり、本やニュース、博物館などで戦争への理解を深めて平和について考えていきたいと思っています。

長崎平和宣言

68年前の今日、このまちの上空にアメリカの爆撃機が一発の原子爆弾を投下しました。熱線、爆風、放射線の威力は凄まじく、直後から起こった火災は一昼夜続きました。人々が暮らしていたまちは一瞬で廃墟となり、24万人の市民のうち15万人が傷つき、そのうち7万4千人の方々が命を奪われました。生き残った被爆者は、68年たった今もなお、放射線による白血病やがん発病への不安、そして深い心の傷を抱え続けています。

このむごい兵器をつくったのは人間です。広島と長崎で、二度までも使ったのも人間です。核実験を繰り返し地球を汚染し続けているのも人間です。人間はこれまで数々の過ちを犯してきました。だからこそ忘れてはならない過去の誓いを、立ち返るべき原点を、折にふれ確かめなければなりません。

日本政府に、被爆国としての原点に戻ることを求めます。

今年4月、ジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議準備委員会で提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に、80か国が賛同しました。南アフリカなどの提案国は、わが国にも賛同の署名を求めました。

しかし、日本政府は署名せず、世界の期待を裏切りました。人類はいかなる状況においても核兵器を使うべきではない、という文言が受け入れられないとすれば、核兵器の使用を状況によっては認めるという姿勢を日本政府は示したことになります。これは二度と、世界の誰にも被爆の経験をさせないという、被爆国としての原点に反します。

インドとの原子力協定交渉の再開についても同じです。

NPTに加盟せず核保有したインドへの原子力協力は、核兵器保有国をこれ以上増やさないためのルールを定めたNPTを形骸化することになります。NPTを脱退して核保有をめざす北朝鮮などの動きを正当化する口実を与え、朝鮮半島の非核化の妨げにもなります。

日本政府には、被爆国としての原点に戻ることを求めます。

非核三原則の法制化への取り組み、北東アジア非核兵器地帯検討の呼びかけなど、被爆国としてのリーダーシップを具体的な行動に移すことを求めます。

核兵器保有国には、NPTの中で核軍縮への誠実な努力義務が課されています。これは世界に対する約束です。

2009年4月、アメリカのオバマ大統領はプラハで「核兵器のない世界」を目指す決意を示しました。今年6月にはベルリンで、「核兵器が存在する限り、私たちは真に安全ではない」と述べ、さらなる核軍縮に取り組むことを明らかにしました。被爆地はオバマ大統領の姿勢を支持します。

しかし、世界には今も1万7千発以上の核弾頭が存在し、その90%以上がアメリカとロシアのものです。オバマ大統領、プーチン大統領、もっと早く、もっと大胆に核弾頭の削減に取り組んでください。「核兵器のない世界」を遠い夢とするのではなく、人間が早急に解決すべき課題として、核兵器の廃絶に取り組み、世界との約束を果たすべきです。

核兵器のない世界の実現を、国のリーダーだけにまかせるのではなく、市民社会を構成する私たち一人ひとりにもできることがあります。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにする」という日本国憲法前文には、平和を希求するという日本国民の固い決意がこめられています。かつて戦争が多くの人を命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を、戦争がもたらした数々のむごい光景を、決して忘れない、決して繰り返さない、という平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。

若い世代の皆さん、被爆者の声を聞いたことがありますか。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ」と叫ぶ声を。

あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。68年前、原子雲の下で何があったのか。なぜ被爆者は未来のために身を削りながら核兵器廃絶を訴え続けるのか。被爆者の声に耳を傾けてみてください。そして、あなたが住む世界、あなたの子どもたちが生きる未来に核兵器が存在しているのか。考えてみてください。互いに話し合ってみてください。あなたたちこそが未来なのです。

地域の市民としてできることもあります。わが国では自治体の90%近くが非核宣言をしています。非核宣言は、核兵器の犠牲者になることを拒み、平和を求める市民の決意を示すものです。宣言をした自治体でつくる日本非核宣言自治体協議会は今年、設立30周年を迎えました。皆さんが宣言を行動に移そうとするときは、協議会も、被爆地も、仲間として力をお貸しします。

長崎では、今年11月、「第5回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」を開催します。市民の力で、核兵器廃絶を被爆地から世界へ発信します。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、未だ収束せず、放射能の被害は拡大しています。多くの方々が平穏な日々を突然奪われたうえ、将来の見通しが立たない暮らしを強いられています。長崎は、福島の日も早い復興を願い、応援していきます。

先月、核兵器廃絶を訴え、被爆者援護の充実に力を尽くしてきた山口仙二さんが亡くなりました。被爆者はいよいよ少なくなり、平均年齢は78歳を超えました。高齢化する被爆者の援護の充実にあらためて求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、広島市と協力して核兵器のない世界の実現に努力し続けることをここに宣言します。

2013年(平成25年)8月9日

長崎市長 田上 富久

以下、長崎平和宣言（用語解説）から抜粋

◆核不拡散条約（NPT）再検討会議

（1）核不拡散条約

核不拡散条約（NPT）は、核兵器保有国が増える（核が拡散する）ことを防ぐ目的でつくられた条約で、1970年（昭和45年）に発効しました。2003年（平成15年）1月に一方的に脱退を表明している北朝鮮も含めると、現在の国連加盟国の中で、インド、パキスタン、イスラエルの3か国を除く190か国が加盟しています。

主な内容は、1967年（昭和42年）1月時点で核兵器を保有していたアメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国の5か国だけに核兵器の保有を認め（核保有国）、それ以外の国（非核保有国）が保有することを禁止しています。

核保有国には、核兵器を減らすための交渉を誠実に行うことを求め、非核保有国には核兵器の製造、取得を禁じています。

また、非核保有国には、原子力の平和利用が認められており、原子力発電所を建設する場合は、必ずそれが平和利用であるかどうかを確認するために、国際原子力機関（IAEA）の検査を受ける義務があります。

しかし、イランは、原子力の平和利用を名目に核兵器を開発しているのではないかと疑いを持たれているほか、核保有国の核兵器の削減も進んでいないなど、多くの問題を抱えています。

核兵器の保有国を増やさないためにも、この条約内容に各国が真剣に取り組むことに加え、核兵器禁止条約など新たな取組みも求められています。

（2）再検討会議

核不拡散条約（NPT）では、核兵器の軍縮や拡散の状況を定期的に検討するため、5年毎に再検討会議が開かれ、その前に3回から4回の準備委員会が開催されます。

2000年（平成12年）の再検討会議では、核保有国による核軍縮への努力が不足しているとの声が高まり、「核兵器の全面廃絶に対する核兵器保有国の明確な約束」を盛り込んだ合意文書が採択されました。

しかし、2005年（平成17年）の再検討会議は、核保有国と非核保有国の意見が鋭く対立し、成果を得ることなく閉幕しました。

2010年（平成22年）の再検討会議は前年にアメリカのオバマ大統領が登

場し、「核兵器のない世界」への機運が高まる中で開催され、「核兵器のいかなる使用も人道上、破滅的な結果をもたらすことを深く憂慮する」と核兵器の非人道性が明記された核軍縮に向けた 64 項目の行動計画を柱とする最終文書が採択されました。

次回の再検討会議は、2015 年（平成 27 年）4 月 27 日から 5 月 22 日までニューヨークの国連本部での開催が決定しています。

◆インドとの原子力協定交渉の再開

核不拡散条約（NPT）に加盟した国々には、核軍縮と核不拡散に取り組む義務と同時に原子力を平和利用する権利が与えられます。

原子力の平和利用の権利の一つとして、原子力発電などの高い技術をもつ国から、資機材や技術などの提供を受ける原子力協力があります。

原子力発電の高い技術をもつ日本は、アメリカ、イギリス、フランス、カナダ、オーストラリアなどと協定を結んでいます。

ところが、インドは NPT に加盟しないまま、1998 年（平成 10 年）に核兵器の保有を宣言しました。当時は国際社会の大きな反発を招き、国連安保理の制裁や各国から経済制裁を受けることになりました。

しかし、その後、急速な経済発展をしているインドの巨大市場への進出を狙って、まずアメリカがインドと原子力協定を締結しました。2010 年（平成 22 年）6 月、日本政府もインドとの原子力協定の締結に向けて、話し合いを開始し、東京電力福島第一原子力発電所の事故で中断したものの、2013（平成 25 年）年 5 月に交渉再開を発表しました。

これに対し長崎市は、「被爆地として交渉再開は、NPT 体制の形骸化につながるもので、納得しがたい」と日本政府へ、インドとの原子力協定締結交渉を中止するよう要請しました。

◆非核三原則

非核三原則とは、核兵器を「持たない」「つぐらない」「持ち込ませない」という被爆国である日本政府の 3 つの原則のことです。

1967 年（昭和 42 年）12 月、当時の佐藤栄作首相が国会（衆議院の予算委員会）で表明しました。1971 年（昭和 46 年）11 月の衆議院で沖縄返還に関連して、初めて国の方針（国是）として決議（国会の意志を決めること）が行われました。

◆北東アジア非核兵器地帯

北東アジア非核兵器地帯とは、日本と韓国と北朝鮮の3か国を「非核兵器地帯」にしようとするものです。条約として成立するためには、3か国に核兵器が存在せず、近隣の核保有国（アメリカ、ロシア、中国）が、3か国を核兵器で攻撃をしないと約束することが必要になります。

日本では、1971年（昭和46年）に非核三原則の国会決議が行われ、また、韓国と北朝鮮による「朝鮮半島非核化共同宣言」が、1992年（平成4年）に発効するなど、それぞれの国が非核化を表明しました。

しかし、2006年（平成18年）10月、北朝鮮が最初の核実験を実施し、さらに、2009年（平成21年）5月に2回目を、2013年（平成25年）2月に3回目の核実験を強行したことから、朝鮮半島の非核化の実現は困難な状況になりました。

今後、北東アジア非核兵器地帯を実現するためには、国際社会が結束して、北朝鮮の核を放棄させることが必要となります。2012年（平成24年）4月末からオーストリア・ウィーンで2015年（平成27年）の核不拡散条約（NPT）再検討会議に向けた準備委員会が開かれました。その中でスイスやノルウェーなど16か国が共同で声明を発表しています。16か国は、核兵器の使用が人類の生存や環境に対して大きな脅威となることについて触れ、すべての国が核兵器を非合法化し、核兵器のない世界を実現するために努力するよう求めています。

また、特に核兵器国に対しては、国際法や国際人道法を重視するよう求めています。

◆オバマ大統領による核軍縮演説

オバマ大統領は就任1期目の2009年（平成21年）4月、チェコ・プラハで、「核兵器のない世界」を目指すと訴えました。大統領は、核兵器を使用したことがある唯一の核保有国としてアメリカが先頭に立ち、核兵器のない世界の平和と安全を追求する決意を明らかにしました。アメリカの核軍縮へと向かう核政策の転換を国際社会に強く印象づけ、核兵器廃絶への機運が高まりました。

大統領2期目の2013年（平成25年）6月、ドイツ・ベルリンでの演説で、「核兵器がある限り真の安全とは言えない」と述べ、「核兵器のない世界」の実現を重要課題として取組む姿勢を示しました。ロシアと一緒に戦略核を3分の1減らすことで核軍縮を推進しようとしています。

この提案にロシア政府とアメリカ国内が応じるか。核超大国アメリカ大統領のリーダーシップが注目されます。

◆1万7千発以上の核弾頭

長崎に落とされた原爆は、通常火薬の約2万1,000トンの量に相当する威力があったといわれています。一方で現代の核兵器は、その数倍から数百倍の威力を持つものまであります。核保有国が持っている核弾頭は、使用できる状態にあるもののほか、ミサイルから取り外されているものの、再び使用できるよう保管されているものも含めると、アメリカ7,700発、ロシア8,500発、イギリス225発、フランス300発、中国250発となっており、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮などの推計もあわせると、世界中に1万7千発以上の核弾頭があるといわれています。

◆ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ

1982年（昭和57年）、国連軍縮特別総会で山口仙二さんが被爆者の代表として演説した時の言葉です。

被爆当時14歳だった山口さんは、学徒動員先の三菱兵器製作所大橋工場で被爆し、顔と全身に大やけどを負いました。

山口さんは、1955年（昭和30年）の長崎原爆青年会の結成をはじめとして、被爆者援護運動と核兵器廃絶を世界に訴える活動に生涯をささげ、2013年（平成25年）7月、82歳で逝去されました。

山口さんの核兵器廃絶への思いは多くの人々に受け継がれています。

◆非核宣言自治体協議会

非核都市宣言や議会決議を行った自治体が連携しながら核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げていくことを目的に、1984年（昭和59年）に広島県府中町で設立されました。

現在、全国294自治体（平成25年8月1日現在）により組織され、総会、研修会のほか、さまざまな平和事業などを通して、住民が核兵器の脅威を感じることなく安心して暮らせる地域社会の実現にむけて努力しています。

◆核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキ

国内外の NGO・自治体関係者・市民が長崎に集結し、核兵器廃絶と恒久平和の実現にむけた具体的に活動方針を話し合う国際集会で、官民一体となった実行委員会が企画と運営を行っています。

これまで、2000年（平成12年）、2003年（平成15年）、2006年（平成18年）、2010年（平成22年）と4回開催され、「長崎アピール」を採択してきました。

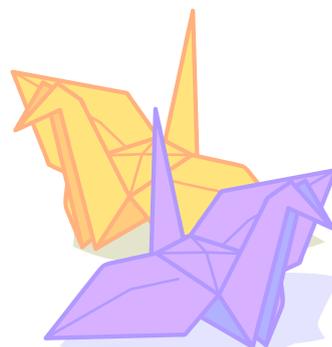
2013年（平成25年）11月2日から4日まで、第5回目の集会が開催される予定です。核兵器の非人道性に注目が集まる中で、2015年（平成27年）の核不拡散条約（NPT）再検討会議にむけて、NGOの連携が期待されています。



～ 歴代平和大使名簿 ～

年度	No.	氏名 (学校名)
平成二十年度(二〇〇八年)	1	熊川 実旺 (第四中 2年)
	2	別宮 賢治 (第五中 2年)
	3	渡邊 ちさと (六実中 3年)
	4	片野 結依 (小金南中 1年)
	5	清水 のどか (古ヶ崎中 1年)
	6	藤井 彩乃 (新松戸南中 2年)
	7	清水 健人 (金ヶ作中 1年)
	8	神部 莉奈 (新松戸北中 2年)
	9	山本 拓実 (旭町中 3年)
	10	黒木 若葉 (聖徳大学附属中 1年)
平成二十一年度(二〇〇九年)	1	川本 景介 (第一中 1年)
	2	鈴木 亜加里 (第二中 1年)
	3	小幡 祐太 (第三中 1年)
	4	山田 政明 (第四中 1年)
	5	清水 彬奈 (第五中 1年)
	6	久佐野 美奈子 (第六中 1年)
	7	増野 友梨奈 (小金中 2年)
	8	井山 陽菜 (常盤平中 2年)
	9	小林 美幸 (栗ヶ沢中 1年)
	10	熊川 大揮 (六実中 1年)
	11	高島 里夏 (牧野原中 3年)
	12	西 志穂 (河原塚中 3年)
	13	工藤 颯人 (根木内中 1年)
	14	四家 明宜 (金ヶ作中 1年)
	15	児島 一華 (和名ヶ谷中 1年)

年度	No.	氏名 (学校名)
平成二十二年度(二〇一〇年)	1	櫻井 和奏 (第一中 2年)
	2	吉田 彩乃 (第二中 1年)
	3	三橋 若奈 (第三中 1年)
	4	笹本 幸輝 (第四中 2年)
	5	比嘉 祐哉 (第五中 2年)
	6	後藤 奈穂美 (第六中 1年)
	7	神部 ちひろ (小金中 2年)
	8	田中 萌加 (常盤平中 1年)
	9	高梨 望 (栗ヶ沢中 2年)
	10	岸田 穰士 (六実中 2年)
	11	大山 祭 (小金南中 1年)
	12	渡邊 誠嗣 (古ヶ崎中 2年)
	13	梶浦 美樹 (牧野原中 2年)
	14	斉藤 温人 (根木内中 1年)
	15	富永 由也 (河原塚中 1年)
	16	石井 拓海 (新松戸南中 2年)
	17	中川 剛志 (金ヶ作中 1年)
	18	向田 美紀子 (和名ヶ谷中 3年)
	19	山本 ありさ (旭町中 2年)
	20	新倉 花菜 (小金北中 1年)
	21	田村 陽香 (聖徳大学附属女子中 2年)
	22	染谷 日向子 (専修大学松戸中 1年)



年度	No.	氏名 (学校名)
平成二十三年 度(二〇二一年)	1	佐藤 萌加 (第一中 2年)
	2	発地 空介 (第三中 1年)
	3	岸 健太 (第四中 1年)
	4	宗像 未来 (第五中 1年)
	5	天野 七海 (第六中 1年)
	6	紙崎 莉緒 (小金中 2年)
	7	井山 祥樹 (常盤平中 2年)
	8	加藤 円来 (栗ヶ沢中 1年)
	9	鈴木 理花子 (六実中 3年)
	10	坂本 実優 (小金南中 1年)
	11	谷口 茉奈美 (古ヶ崎中 1年)
	12	對馬 あい子 (牧野原中 2年)
	13	山田 真平 (河原塚中 2年)
	14	新垣 峻太 (新松戸南中 3年)
	15	水谷 春来 (金ヶ作中 2年)
	16	長谷川 結友 (旭町中 3年)
	17	板倉 日向子 (小金北中 1年)
	18	張 敏 (聖徳大学附属女子中 2年)
	19	平野 瑞帆 (専修大学松戸中 2年)

年度	No.	氏名 (学校名)
平成二十四年 度(二〇二二年)	1	阿部 秀大 (第一中 2年)
	2	茂出来 美樹 (第二中 3年)
	3	小澤 美羅 (第三中 3年)
	4	笠原 卓斗 (第四中 1年)
	5	播磨 渚生 (第五中 3年)
	6	内海 渚 (第六中 1年)
	7	大津 みちる (小金中 3年)
	8	小俣 さやか (常盤平中 1年)
	9	佐藤 優海香 (常盤平中 1年)
	10	阿部 裕美 (六実中 1年)
	11	宮本 龍一 (小金南中 3年)
	12	樋口 杏 (古ヶ崎中 1年)
	13	高橋 あみ (牧野原中 2年)
	14	遠藤 未羽 (根木内中 2年)
	15	後藤 陽 (河原塚中 1年)
	16	鈴木 里歩 (新松戸南中 2年)
	17	岩崎 いぶき (和名ヶ谷中 1年)
	18	伊藤 梢 (和名ヶ谷中 3年)
	19	紀藤 颯斗 (旭町中 1年)
	20	川村 香奈美 (小金北中 1年)
	21	石井 そら (聖徳大学附属女子中 2年)
	22	中山 皓一郎 (専修大学松戸中 1年)





平成25年度
平和大使長崎派遣事業報告書
～夢と希望の世界を願って
平和への第一歩～

松戸市
総務部総務課